

## 背景・目的

日本文学科では2年次専門科目「日本文化史」において能狂言、歌舞伎、文楽等、日本の古典芸能について学んでいる。教室では視聴覚資料を多用し、最低でも年に三回（能、歌舞伎、文楽、それぞれ1回ずつ）生の舞台に接する機会を提供し、受講者が興味を持って学ぶことができるよう取り組んでいる。2012年度以降、授業の一環としてプロの能楽師によるワークショップ形式の特別講義を実施しているが、2014年度から能の実技体験講座を開設し教育内容のさらなる充実を図ることとした。今年度はその2年目にあたる。

## 実施内容

### 1. 2年次専門科目「日本文化史A・B」

特別企画の事前・事後指導を含め、前期は能狂言、後期は歌舞伎と文楽について学ぶ。

### 2. 特別企画①「能を学ぶ」～喜多流能楽師佐藤寛泰師による特別講義／6月19日（金）、学内・ハンセン記念ホール、「日本文化史」受講者全員および希望者、能面の解説、謡や摺り足等の実演・体験など。



### 3. 特別企画②「能を観る」～喜多流喜章会「能への誘い」公演／11月9日（月）、学外・仙台市民会館、「日本文化史」受講者全員および希望者、能『鞍馬天狗』、仕舞『八島』『清経』、装束の着装実演

### 4. 特別企画③「能を体験する」～佐藤寛泰師による能の実技体験講座／2016年2月15日～17日、学内・B201、希望者、6回集中講座、

## 能『猩々』謡と仕舞



## 結果及び考察

6月の「能を学ぶ」は「日本文化史」受講者の中から希望者6名が舞台に上がり、童子・天神・怪士・シカミなど貴重な能面をつけさせていただいた。以下、参加者の感想を摘記する。

- ・ 能面の事は授業で学びましたが、実際の付け方や能面の仕組みや裏側など、ビデオで見る以上によくわかり、非常に勉強になりました。生の舞台を見るのがますます楽しみです。
- ・ 事前に授業を受けているので、役者さんのお話により深く理解できました。よい経験になりました。ぜひ来年も続けてほしいです。
- ・ 実際に能面をつけさせていただいて、視野が狭く、動くのが怖かったです。その状態で謡いながら演じている能楽師の方々ほど稽古を積んでいるのかと驚きました。体験講座もまた参加させていただきたいと思います。

年度末に行われた「能を体験する」の参加者は4名だった。今年度は諸事情から小規模な講座になったが、ワザの指導と伝承は本来少人数もしくは一対一のほうがよい。参加者たちも能に対する敬意と熱意と意欲にあふれた学生たちで、最終日には口々に「もっと習いたい」「もっと学びたい」と語っていた。

やはり、知識でも実技でも、自ら「参加・体験」することで得られた達成感の高さが学びの意欲をより一層高めていることが確認された。この知見を来年度のプログラムに活かして行きたい。